

1. 単元名 Unit 5 A New Language Service (New Horizon English Course 2)

2. 単元について

(1) 単元観

①単元の内的側面から

この単元は、言語ボランティアを募集している緑市国際交流センターの広報誌の記事からスタートする。日本で生活をしている外国人と遭遇する機会は年々増えているが、日本で生活する外国人にとって、文字を3種類持つ日本語が生活するうえで大きな壁になっていることは容易に予測できる。特に諸手続きをしなければならない市町村役場や緊急を要する病院、多くのことを学ぶ学校などでは外国人に対してその母語で対応することは外国人を安心させることだろう。この単元は普段日本で生活しては決して気がつかない、日ごろ外国人が置かれている立場について考えるよいきっかけであると思われる。

そのような環境下で一郎の母は通訳ボランティアに応募する。その応募したことを一郎の母は一郎の友達ベッキーに話をする場面が続く。最後のリーディングでは、外国人住人のために市が新しいサービスを始めることを伝える新聞記事と、その翌週に一郎の母がこのことに関して新聞に投書した記事が掲載されている。一郎の母がどのような気持ちでボランティアに申し込んだのか、どんなことを主張しているのかを読み取らせる必要があるだろう。

②言語材料的側面から

この単元から **because**, **if**, **when** や **that** 節などの接続詞が登場し、これまで比較的一文が短い短文だったものから、複文になって構造上も複雑になる。特に **because** は、自分の意見に理由を付け加えるために非常に重要な語であり、理論的に意見を述べる第一歩となる。欧米では時折、意見そのものよりもその理由が大切だと聞く。そういう意味では本ユニットで扱う言語材料は非常に重要なものであるといえる。

この接続詞を指導する際に考えられる躓きとして、接続詞を文頭に置くのか文中に置くのかで若干用法に変化があることや、日本語と英語では語順が異なることが挙げられる。英単語の並び替え問題等では、扱う単語数も増え、混乱することが予想されるので、主節と従属節の主語と動詞を見失わないように指導する必要がある。

(2) 生徒の実態

削除

(3) 指導観

①単元的内容的側面から

ボランティア精神の重要性が話題になってから久しい。この単元でも市のボランティア募集の案内からスタートし、実際にボランティアに申し込んだ一郎の母、そして、身近な問題に対して提案をしている一郎の母の投稿。一郎の母は、大きなボランティアをすることが大切なのではなく、身近で誰でもできることからスタートすべきとその投書で訴えている。我々もボランティアと聞くととかく大きなことを考えがちだが、生徒たちにも目の前の誰でもできるようなことに目を向けさせ、自分でも地域住民の一人として何ができるか考えるきっかけになるように指導していきたい。

②言語材料的側面から

決して英語の学習に対して意欲が高いといえない2クラスの生徒たちにまず身につけさせたいのが、英文の基本である「主語＋動詞」の構造である。その後、このユニットで扱う接続詞が出てくることで、「主語＋動詞＋接続詞＋主語＋動詞」と構造が複雑になるので、その文の構造と語順をパターンプラクティスとワークシートでじっくりと理解させていきたい。

このユニットで学習する、特に **because** を使うことで、自己表現の幅が大きく広がる。これまで「～したい」「～が好き」までしか表現できなかったところから、自分の意見を論理的に述べる第一歩になる。じっくり練習をしながら、理由づけした自分の気持ちを表現するところまで指導していきたい。そしてそうすることがコミュニケーション技能の向上につながることを意識して指導していきたい。そのためには、このユニットのまとめの段階でタスクを課す。タスク活動を課すことで、場面が明確になり、英語でコミュニケーションをとる必然性を持たせることを可能にする。そうすることで、英語で表現したくなる気持ちが高まると考えている。タスクを達成するために、生徒自ら自然にこのユニットで学習する接続詞が使えたらと考えている。

③本研究とのかかわり

本研究では二つの大きな目的がある。一つ目は自分の意見を話すための QAAA 活動などの会話トレーニングの有効性を検証すること。二つ目は、英語を話したくなる、使いたくなる場面を「タスク活動」で設定することで、学習意欲が高まっていくことを検証することである。普段の授業で会話トレーニング(QA活動、QAAA活動など継続した会話活動)を実践していなければ、いきなりタスク活動を課すことは非常に困難である。そこで、会話トレーニングを帯どりで行い、答え方の公式を知り、毎時間訓練することで次第に慣れ、タスク活動を実行するときに助けになると考えている。また、生徒が言いたくなるような場面をタスク活動で設定すれば、自分たちで考え、自分の気持ちを相手に伝えようとする意欲が高まると考えている。

3. 単元の目標

○基本会話トレーニングである QAAA 活動で自分の意見を3つ以上言うことができる。

○because, if, when, that 節の意味、用法を理解し、正しい語順で英文を書くことができる。

○ユニットの最後に行うタスク活動で、既習事項はもちろん、ユニットで学習したことを使って自分の気持ちを伝えることができる。

4. 指導計画と評価計画(10時間+2時間扱い)

Index	Stage	学習内容		この時間でできるようになりたいこと
		Unit 5 の取り組み	「話すこと」(研究に関わること)に関する指導	
PRE 1	P(Presentation) 新しい言語材料の導入の段階	※プレテストの内容 ①What country do you want to go to? ②Which do you like better, summer vacation or winter vacation? ※「Unit 5 の歌」「Unit 5 のチャンツ」を確認 ※QA シートの使い方 質問の意味・発音 質問への答え方 QA 活動の仕方について		①オリエンテーション ②プレテストとして「書くこと」で語数を確認する。 (「話すこと」でのプレテストは別時間に設定) ③全員が QA 活動に取り組めるように準備
1		because 導入 because のパターンプラティス (QUIPON) because の文法説明とワークシート	QA 活動① (3 分間+教師→生徒への確認) 今日の指令 (できるだけ多くの仲間に質問しよう)	①QA 活動で、できるだけ多くの仲間に質問をすることができる。 ②because の意味・使い方をつかむ。
2		because の復習とワークシート AC When 導入 When のパターンプラティス (QUIPON) When の文法説明とワークシート	QA 活動② (3 分間+教師→生徒への確認) 今日の指令 (目標 10 人。同性よりも異性に多く質問しよう)	①QA 活動の時、同性同士で固まることなく、異性にも多く質問ができる。 ②because の使い方を理解する。 ③when の意味・使い方をつかむ。
3		When の復習とワークシート AC If 導入 If のパターンプラティス (QUIPON) If の文法説明とワークシート	QA 活動③ (3 分間+教師→生徒への確認) 今日の指令 (目標 12 人。同じ質問をしない)	①QA 活動で、さまざまな質問を多くの仲間にできる。 ②when の使い方を理解する。 ③if の意味・使い方をつかむ。
PRE 2		QA 活動④ (3 分間) 今日の指令 (目標 15 人。これまでチェックしていない人に質問しよう) →QA で会話が終わることが不自然なことに気づかせる。 QA 活動から QAAA 活動へ (それぞれの質問に 3 つの A を作る) →今回は 15 個の QA の中から 3 つを抜粋したものに、A を 3 つつくる。 If の復習とワークシート AC		①これまでにチェックしていない人に質問することができる。 →QA で会話が終わることが不自然なことに気が付くことができる。
4	If の復習とワークシート AC that 節導入 that 節のパターンプラティス (QUIPON) that 節の文法説明とワークシート	前回回収した QAAA を ALT と猪野でチェックをし、返却したものをリライトさせる。 その後読み方の練習をする。 QAAA 活動① (やり方の練習)	①返却された QAAA シートをリライトし、それを読める。 ②if の使い方を理解する。 ③that 節の使い方をつかむ。	
5	P(Practice) 練習の段階	that 節のワークシート AC QUIPON (すべて) Starting Out 導入・確認・音読・本文視写	QAAA 活動② (1 分間×3 トピック) ブレレコーディング	①QAAA 活動で紙を見ながらでよいので全員が A を 3 つ以上いえる。 ②that 節の使い方を理解する ③Starting Out の本文の内容をつかむ。音読ができる。
6		QUIPON (すべて) Dialog 導入・確認・音読・本文視写	QAAA 活動③ (1 分間×3 トピック) 会話のストラテジー① (QAAA を細切れで言うことができる)	①QAAA 活動で A を細切れで言い一方通行から相互通行の会話ができる。 ②Starting Out の内容を理解し、視写できる。 ③Dialog の本文の内容をつかむ。音読ができる。
7		QUIPON (すべて) R for C①導入・確認・音読・本文視写	QAAA 活動④ (1 分間×3 トピック) 会話のストラテジー② (つなぎ言葉をうまく使おう) つなぎ言葉① (相手の言ったことに反応する)	①QAAA 活動でつなぎ言葉を使い、より自然な会話ができる。 ②Dialog の内容を理解し、視写できる。 ③R for C①の本文の内容をつかむ。音読ができる。
8		QUIPON (すべて) R for C②導入・確認・音読・本文視写	QAAA 活動⑤ (1 分間×3 トピック) つなぎ言葉② (相手に確認したり、聞き返したりする)	①QAAA 活動で相手の言ったことを確認したり、聞き返したりできる。 ②R for C①の内容を理解し、視写できる。 ③R for C②の本文の内容をつかむ。音読ができる。
9	P(Production) 活用の段階	タスク活動	QAAA 活動⑥ (1 分間×3 トピック) つなぎ言葉③ (人に振って会話をつなげよう)	①QAAA 活動で自分の意見が言い終わっても、人に上手に振りながら会話ができる。 ②R for C②の本文を理解し、視写できる。 ③タスク活動の中で、自分の言葉で相手に考えを述べるることができる。
10		単元のまとめ 単元テスト 事後アンケート ポストテスト	QAAA 活動のまとめ (くじ引きで 1 トピック) ポストレコーディング	①それぞれのトピックに対して何とか 1 分程度の会話ができる。 ②接続詞が含まれた文を正しくつくることできる。(並び替え問題) ③ブレレコーディングの会話と今の会話を聞き比べ、違いに気がつける。
POST		※ポストテストの内容 ①What country do you want to go? ②Which do you like better, Hokkaido or Okinawa?		「書くこと」で文字数「話すこと」で文字数、時間で確認する。 (話すことでのポストテストは別の時間に抽出生徒で実施)

5. 本時の指導 (1 / 10)

(1) 目標

○QA 活動で、できるだけ多くの仲間に質問をすることができる。

○because の意味・使い方をつかむ。

(2) 展開

(○・・・評価 ★・・・留意点)

学習過程	時配	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考
ウォームアップ	3	○ユニットの歌”Bad Day”を歌う	・明るい雰囲気です授業を始められるように元気に歌う。	I-pod 歌詞
	3	○ユニットのチャンツを歌う 「思い出チャンツ」 「しりとりチャンツ」	・リズムに乗れなくても、ロパクでよいから歌うように促す。	歌詞
帯活動	7	○QA 活動をする① ・生徒同士で(3 分間) ・何人に質問できたか評価する(1 分間) ・教師から生徒へ(3 分間) 今日のポイント:できるだけ多くの仲間に聞く	○自分たちで質問できているか。質問の英語が読めているか。答え方が分かっているか。多くの仲間に聞こうとしているか。 ○正しくこたえられてるか教師が一人一人に質問して確認する。	QA シート
導入 P	3	○because の導入 Skit A:What country do you want to go? B:I want to go to New York. A:Really? Why? A:Because I want to see the Statue of Liberty.	・because のスキットの途中で黒板に貼ることで強調され、生徒の意識が because にいく。 ★意味が分かりやすいように、必要に応じて日本語を織り交ぜる。	
理解 C	10	○because の解説 板書計画 ◎今日のテーマ”because”(なぜならば だって) ①I want to go to NY because I want to see the S of L. ②Because I want to see the S of L, I want to go to NY. (ポイント) ※because は文と文を結ぶ接着剤の働き。意味は、「なぜならば」「だから」。 ※because は文の途中(①)にもおけるし、文の先頭(②)にも置けるが、文の先頭に置くとカンマが必要なので気を付ける。	・意味の確認と because の用法について確認する。	
練習 P	6	○パターンプラクティスをする →絵カードを使って全体でパターンプラクティスを行う。(3 分間) →QuiPon をつかってペアでパターンプラクティスを行う。(1 分間×3 セット)	★全体でパターンプラクティスをすることで、やり方を学び、その後の活動がやりやすくなる。 ・QUIPON を使って、ペアで練習をすることで、数をこなすことができる。	絵カード QUIPON
活用 P	15	○because のワークシート →終わった生徒はワークブックを行う。	・苦手な生徒には、主語と動詞を見つけるように援助する。 ・早く終わった生徒は、ワークブック(39 ページ)をやるように追加の指示をする。	
まとめ	3	○本時のまとめをする		

5. 本時の指導 (2 / 10)

(1) 目標

○QA 活動の時、同性同士で固まることなく、異性にも多く質問ができる。目標 10 人。

○because の使い方を理解する。

○when の意味・使い方をつかむ。

(2) 展開

(○・・・評価 ★・・・留意点)

学習過程	時配	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考
ウォームアップ	3	○ユニットの歌”Bad Day”を歌う	・明るい雰囲気です授業を始められるように元気に歌う。	I-pod 歌詞
	3	○ユニットのチャンツを歌う 「思い出チャンツ」 「しりとりチャンツ」	・リズムに乗れなくても、ロパクでよいから歌うように促す。	歌詞
帯活動	7	○QA 活動をする② ・生徒同士で(3 分間) ・何人に質問できたか評価する(1 分間) ・教師から生徒へ(3 分間) 今日のポイント: 目標 10 人 同性よりも異性に聞く	○自分たちで質問できているか。質問の英語が読めているか。答え方が分かっているか。多くの仲間に聞こうとしているか。 ○正しくこたえられてるか教師が一人一人に質問して確認する。	QA シート
復習	10	○because の復習 →QUIPON を使ってペアでパターンプラクティスをする(1 分×3 セット) →生徒を指名し、黒板に答えを書かせる。	★確実に答え合わせができているか、机間巡視で確認する。	
導入 P	3	○when の導入 Skit A:What do you want to be in the future? B:I want to be a great teacher. A:Really? When you were JHS student, what did you want to be? B:I wanted to be a baseball player.	・when のスキットの途中で黒板に貼ることで強調され、生徒の意識が when にいく。 ★意味が分かりやすいように、必要に応じて日本語を織り交ぜる。	
理解 C	10	○when の解説 板書計画 ◎今日のテーマ”when”(～の時) ①I am happy when I study French. ②When I study French, I am happy. (ポイント) ※when は文と文を結ぶ接着剤の働き。意味は、「～の時」。「いつ」とは区別する。 ※when は because 同様、文の途中(①)にもおけるし、文の先頭(②)にも置けるが、文の先頭に置くとカンマが必要なので気を付ける。	・意味の確認と when の用法について確認する。	
練習 P	6	○パターンプラクティスをする →絵カードを使って全体でパターンプラクティスを行う。(3 分間) →QuiPon をつかってペアでパターンプラクティスを行う。(1 分間×3 セット)	★全体でパターンプラクティスをすることで、やり方を学び、その後の活動がやりやすくなる。 ・QUIPON を使って、ペアで練習をすることで、数をこなすことができる。	絵カード QUIPON
活用 P	8	○when のワークシート →終わった生徒はワークブックを行う。	・苦手な生徒には、主語と動詞を見つけるように援助する。 ・早く終わった生徒は、ワークブック(38 ページ)をやるように追加の指示をする。	
まとめ		○本時のまとめをする		

5. 本時の指導 (3 / 10)

(1) 目標

○QA 活動で、さまざまな質問を多くの仲間にできる。目標 12 人。

○when の使い方を理解する。

○if の意味・使い方をつかむ。

(2) 展開

(○・・・評価 ★・・・留意点)

学習過程	時配	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考
ウォームアップ	3	○ユニットの歌”Bad Day”を歌う	・明るい雰囲気です授業を始められるように元気に歌う。	I-pod 歌詞
	3	○ユニットのチャンツを歌う 「思い出チャンツ」 「しりとりチャンツ」	・リズムに乗れなくても、ロパクでよいから歌うように促す。	歌詞
帯活動	7	○QA 活動をする③ ・生徒同士で(3 分間) ・何人に質問できたか評価する(1 分間) ・教師から生徒へ(3 分間) 今日のポイント: 目標 12 人 同じ質問はしないこと	○自分たちで質問できているか。質問の英語が読めているか。答え方が分かっているか。多くの仲間に聞こうとしているか。 ○正しくこたえられてるか教師が一人一人に質問して確認する。	QA シート
復習	10	○when の復習 →QUIPON を使ってペアでパターンプラクティスをする(1 分×3 セット) →生徒を指名し、黒板に答えを書かせる。	★確実に答え合わせができているか机間巡視で確認する。	
導入 P	3	○if の導入 Skit A: If you have ¥100,000,000, what do you want to buy? B: I want to buy a BMW.	・if のスキットの途中で黒板に貼ることで強調され、生徒の意識が if にいく。 ★意味が分かりやすいように、必要に応じて日本語を織り交ぜる。	
理解 C	10	○if の解説 板書計画 ◎今日のテーマ”if” (もし～) ①I want to buy a BMW if I have ¥100,000,000. ②If I have ¥100,000,000, I want to buy a BMW. (ポイント) ※if は文と文を結ぶ接着剤の働き。意味は、「もし～」。 ※if は because、when 同様、文の途中(①)にもおけるし、文の先頭(②)にも置けるが、文の先頭に置くとカンマが必要なので気を付ける。	・意味の確認と if の用法について確認する。	
練習 P	6	○パターンプラクティスをする →絵カードを使って全体でパターンプラクティスを行う。(3 分間) →QuiPon をつかってペアでパターンプラクティスを行う。(1 分間×3 セット)	★全体でパターンプラクティスをすることで、やり方を学び、その後の活動がやりやすくなる。 ・QUIPON を使って、ペアで練習をすることで、数をこなすことができる。	絵カード QUIPON
活用 P	8	○if のワークシート →終わった生徒はワークブックを行う。	・苦手な生徒には、主語と動詞を見つけるように援助する。 ・早く終わった生徒は、ワークブック(36 ページ)をやるように追加の指示をする。	
まとめ		○本時のまとめをする		

5. 本時の指導（4 / 10）

(1) 目標

○返却された QAAA シートをリライトし、それを読める。

○if の使い方を理解する。

○that 節の使い方をつかむ。

(2) 展開

(○・・・評価 ★・・・留意点)

学習過程	時配	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考
ウォームアップ	3	○ユニットの歌”Bad Day”を歌う	・明るい雰囲気です授業を始められるように元気に歌う。	I-pod 歌詞
帯活動	3	○ユニットのチャンツを歌う 「思い出チャンツ」 「しりとりチャンツ」	・リズムに乗れなくても、ロパクでよいから歌うように促す。	歌詞
	10	○QAAA 活動をする① リライト: 返却された QAAA を別紙に書き直す ・きれいに書き写す 5 分 ・読めない単語を確認する 2 分 ・全体で読みの練習をする 3 分	★読めない生徒には個別に対応し、読み仮名を振るなど対処する。	QAAA シート
復習	3	○If の復習 →QUIPON を使ってペアでパターンプラクティスをする (1 分×3 セット)		
導入 P	3	○that 節の導入 Skit A: Do you think that Chiba is a good place to live? B: Yes. A: Why do you think so? A: Because we can eat good fish in Chiba. B: I think so, too.	・that のスキットの途中で黒板に貼ることで強調され、生徒の意識が that にいく。 ★意味が分かりやすいように、必要に応じて日本語を織り交ぜる。	
理解 C	10	○that 節の解説 板書計画 ◎今日のテーマ”that”「文と文を結ぶ接着剤」 I think (that) Chiba is a good place. Do you think (that) Chiba is a good place? (ポイント) ※that は文と文を結ぶ接着剤の働き。意味はない。省略しても意味が通じる。 ※この that と仲良しなフレーズ I know～ Do you know～? I think～ Do you think～? I hope～	・意味の確認と that 節の用法について確認する。	
練習 P	6	○パターンプラクティスをする →絵カードを使って全体でパターンプラクティスを行う。(3 分間) →QuiPon をつかってペアでパターンプラクティスを行う。(1 分間×3 セット)	★全体でパターンプラクティスをすることで、やり方を学び、その後の活動がやりやすくなる。 ・QUIPON を使って、ペアで練習をすることで、数をこなすことができる。	絵カード QUIPON
活用 P	12	○that 節のワークシート →終わった生徒はワークブックを行う。	・苦手な生徒には、主語と動詞を見つけるように援助する。 ・早く終わった生徒は、ワークブック(37 ページ)をやるように追加の指示をする。	
まとめ		○本時のまとめをする		

5. 本時の指導 (5 / 10)

(1) 目標

○紙を見ながらでよいので全員が A を 3 つ以上いえる。

○that 節の使い方を理解する

○Starting Out の本文の内容をつかむ。音読ができる。

(2) 展開

(○・・・評価 ★・・・留意点)

学習過程	時配	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考
ウォームアップ	3	○ユニットの歌”Bad Day”を歌う	・明るい雰囲気です授業を始められるように元気に歌う。	I-pod 歌詞
	3	○ユニットのチャンツを歌う 「思い出チャンツ」 「しりとりチャンツ」	・リズムに乗れなくても、ロパクでよいから歌うように促す。	歌詞
帯活動	5	○QAAA 活動をする② プレレコーディング ・グループで(1分間×3トピック) ・自分たちの英語を聞いてみよう 今日のポイント: 自分の意見をすべて言おう	○自分の書いた A を 3 つ言えているか。自分の意見を言った後、仲間の意見を聞いているか。 ○今日のポイントを意識しているか。 ・録音後、自分たちの会話を聞いてみる。	QAAA シート IC レコーダー
復習	3	○復習をする →QUIPON を使ってペアでパターンプラクティスをする (1分×3セット)	・本ユニットで学習した内容を振り返る。	
導入 P	13	○教科書の単語意味確認 ・分担して教科書の単語の意味を調べる。(3分) ・全体で確認する。(10分)	・重要語には蛍光ペンでチェックを入れる。	
理解 C	21	○Starting Out 導入 ・内容聞き取り(2分) (大まかな聞き取り→単語レベルのディクテーション) ・意味確認(2分) (QA で本文内容を確認) ・単語練習(2分) (重要語を 5 回以上練習する)	・目的なしのリスニングから目的ありのリスニングへ ★重要語をしっかり練習させ、単元テストで点数がとれるように支援する	
練習 P 活用 P		・音読練習(10分) (イチゴ→個人→フレーズ→指名) ・本文視写(5分) (本文を別紙に丁寧に書き写す)	○全員の口が開いているか。音読が難しい生徒には個別に支援する。 ○4 線に丁寧に付けているか確認する	
まとめ	2	○本時のまとめをする		

5. 本時の指導 (6 / 10)

(1) 目標

- QAAA 活動で A を細切れで言い、一方通行から相互通行の会話ができる。
- Starting Out の内容を理解し、視写できる。
- Dialog の本文の内容をつかむ。音読ができる。

(2) 展開

(○・・・評価 ★・・・留意点)

学習過程	時配	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考
ウォームアップ	3	○ユニットの歌”Bad Day”を歌う	・明るい雰囲気です授業を始められるように元気に歌う。	I-pod 歌詞
	3	○ユニットのチャンツを歌う 「思い出チャンツ」 「しりとりチャンツ」	・リズムに乗れなくても、ロパクでよいから歌うように促す。	歌詞
帯活動	5	○QAAA 活動をする③ ・グループで(1分間×3トピック) ・自分たちの英語を聞いてみよう 今日のポイント:Aを細切れで言おう	○自分の書いたAを3つ言えているか。自分の意見を言った後、仲間の意見を聞いているか。 ○今日のポイントを意識しているか。	QAAAシート
復習	6	○復習をする →QUIPONを使ってペアでパターンプラクティスをする(1分×3セット) →Starting Out 音読	・本ユニットで学習した内容を振り返る。 ○全員の口が開いているか。音読が難しい生徒には個別に支援する。	
導入 P	8	○Dialog 導入 ・内容聞き取り(2分) (大まかな聞き取り→単語レベルのディクテーション)	・目的なしのリスニングから目的ありのリスニングへ	
理解 C	15	・意味確認(2分) (QAで本文内容を確認) ・単語練習(2分) (重要語を5回以上練習する)	★重要語をしっかり練習させ、単元テストで点数がとれるように支援する	
練習 P		・音読練習(10分) (イチゴ→個人→フレーズ→なりきり読み)	○全員の口が開いているか。音読が難しい生徒には個別に支援する。	
活用 P		・本文視写(5分) (本文を別紙に丁寧に書き写す)	○4線に丁寧に付けているか確認する	
まとめ	12	○本時のまとめをする ・ノートづくり		

5. 本時の指導 (7 / 10)

(1) 目標

- QAAA 活動でつなぎ言葉を使い、より自然な会話ができる。
- Dialog の内容を理解し、視写できる。
- R for C①の本文の内容をつかむ。音読ができる。

(2) 展開

(○・・・評価 ★・・・留意点)

学習過程	時配	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考
ウォームアップ	3	○ユニットの歌”Bad Day”を歌う	・明るい雰囲気です授業を始められるように元気に歌う。	I-pod 歌詞
	3	○ユニットのチャンツを歌う 「思い出チャンツ」 「しりとりチャンツ」	・リズムに乗れなくても、ロパクでよいから歌うように促す。	歌詞
帯活動	5	○QAAA 活動をする④ ・グループで(1分間×3トピック) ・自分たちの英語を聞いてみよう 今日のポイント: つなぎ言葉を使ってより自然な会話にしよう	○自分の書いたAを3つ言えているか。自分の意見を言った後、仲間の意見を聞いているか。 ○今日のポイントを意識しているか。	QAAAシート
復習	6	○復習をする →QUIPON を使ってペアでパターンプラクティスをする(1分×3セット) →Dialog	・本ユニットで学習した内容を振り返る。 ○全員の口が開いているか。音読が難しい生徒には個別に支援する。	
導入 P	23	○Reading for Communication①導入 ・内容聞き取り(2分) (大まかな聞き取り→単語レベルのディクテーション)	・目的なしのリスニングから目的ありのリスニングへ	
理解 C		・意味確認(2分) (QAで本文内容を確認) ・単語練習(2分) (重要語を5回以上練習する)	★重要語をしっかり練習させ、単元テストで点数がとれるように支援する	
練習 P 活用 P		・音読練習(10分) (イチゴ→個人→フレーズ→なりきり読み) ・スピードライトニング(2分) (1分間で出来るだけ多く本文を書き写す) ・本文視写(5分) (本文を別紙に丁寧に書き写す)	○全員の口が開いているか。音読が難しい生徒には個別に支援する。 ○4線に丁寧に付けているか確認する	
まとめ	10	○本時のまとめをする ・ノートづくり		

5. 本時の指導 (8 / 10)

(1) 目標

- QAAA 活動で相手の言ったことを確認したり、聞き返したりできる。
- R for C①の内容を理解し、視写できる。
- R for C②の本文の内容をつかむ。音読ができる。

(2) 展開

(○・・・評価 ★・・・留意点)

学習過程	時配	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考
ウォームアップ	3	○ユニットの歌”Bad Day”を歌う	・明るい雰囲気です授業を始められるように元気に歌う。	I-pod 歌詞
	3	○ユニットのチャンツを歌う 「思い出チャンツ」 「しりとりチャンツ」	・リズムに乗れなくても、ロパクでよいから歌うように促す。	歌詞
帯活動	5	○QAAA 活動をする⑤ ・グループで(1 分間×3トピック) ・自分たちの英語を聞いてみよう 今日のポイント: 相手に確認したり、聞き返したりしよう	○自分の書いた A を 3 つ言えているか。自分の意見を言った後、仲間の意見を聞いているか。 ○今日のポイントを意識しているか。	QAAA シート
復習	6	○復習をする →QUIPON を使ってペアでパターンプラクティスをする (1 分×3 セット) →Reading for Communication①	・本ユニットで学習した内容を振り返る。 ○全員の口が開いているか。音読が難しい生徒には個別に支援する。	
導入 P	23	○Reading for Communication②導入 ・内容聞き取り(2 分) (大まかな聞き取り→単語レベルのディクテーション)	・目的なしのリスニングから目的ありのリスニングへ	
理解 C		・意味確認(2 分) (QA で本文内容を確認) ・単語練習(2 分) (重要語を 5 回以上練習する)	★重要語をしっかり練習させ、単元テストで点数がとれるように支援する	
練習 P 活用 P		・音読練習(10 分) (イチゴ→個人→フレーズ→なりきり読み) ・スピードライトニング(2 分) (1 分間で出来るだけ多く本文を書き写す) ・本文視写(5 分) (本文を別紙に丁寧に書き写す)	○全員の口が開いているか。音読が難しい生徒には個別に支援する。 ○4 線に丁寧に付けているか確認する	
まとめ	10	○本時のまとめをする ・ノートづくり		

5. 本時の指導（9 / 10）

(1) 目標

- QAAA 活動で自分の意見が言い終わっても、人に上手に振りながら会話ができる。
- R for C②の本文を理解し、視写できる。
- タスク活動の中で、自分の言葉で相手に考えを述べるができる。

(2) 展開

(○・・・評価 ★・・・留意点)

学習過程	時配	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考
ウォームアップ	3	○ユニットの歌”Bad Day”を歌う	・明るい雰囲気です授業を始められるように元気に歌う。	I-pod
	3	○ユニットのチャンツを歌う 「思い出チャンツ」 「しりとりチャンツ」	・リズムに乗れなくても、ロパクでよいから歌うように促す。	
帯活動	10	○QAAA 活動をする⑤ ポストレコーディング ・グループで(1分間×3トピック) ・自分たちの英語を聞いてみよう 今日のポイント: 自分の意見が言い終わっても、人に振って会話を続けよう	○自分の書いたAを3つ言えているか。自分の意見を言った後、仲間の意見を聞いているか。 ○今日のポイントを意識しているか。	QAAAシート
復習	6	○復習をする →QUIPONを使ってペアでパターンプラクティスをする(1分×3セット) →Reading for Communication②	・本ユニットで学習した内容を振り返る。 ○全員の口が開いているか。音読が難しい生徒には個別に支援する。	
	20	○タスク活動 ・やり方の説明(2分) ・作戦タイム(3分) ・活動(10分) ・振り返り(5分)	★タスク活動の難易度が難しい生徒については、ALTや指導者が適宜援助する。 ★タスク活動の際には、セリフをワークシートに書かないように指示をする。	
まとめ	8	○本時のまとめをする		

5. 本時の指導（10 / 10）

(1) 目標

- それぞれのトピックに対して何とか1分程度の会話ができる。
- 接続詞が含まれた文を正しくつくることできる。(並び替え問題)
- これまで学習したことを踏まえて、1分間のローディングにチャレンジする。

(2) 展開

(○・・・評価 ★・・・留意点)

学習過程	時配	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考
	10	○単元テスト		I-pod
ウォームアップ	3	○ユニットの歌”Bad Day”を歌う ○ユニットのチャンツを歌う 「思い出チャンツ」 「しりとりチャンツ」	・明るい雰囲気です授業を始められるように元気に歌う。 ・リズムに乗れなくても、ロパクでよいから歌うように促す。	
帯活動	10	○QAAA 活動をする④ <u>ポストレコーディング</u> ・グループで(1分間×3トピック) ・自分たちの英語を聞いてみよう <u>今日のポイント:</u> <u>それぞれの会話を1分程度続けてみよう</u> ・自分たちの会話を聞く	○自分の書いたAを3つ言えているか。自分の意見を言った後、仲間の意見を聞いているか。 ○今日のポイントを意識しているか。	QAAAシート
復習	6	○復習をする →QUIPON を使ってペアでパターンプラクティスをする(1分×3セット) →Reading for Communication② →音読テスト?		
	8	○ポストテストを行う ・説明(2分) ・テスト(5分)		
	10	○事後アンケートを行う		
	3	検証授業を終えて		